

地域を知ろう(38)

民話・伝説

No.18 南たんぼ

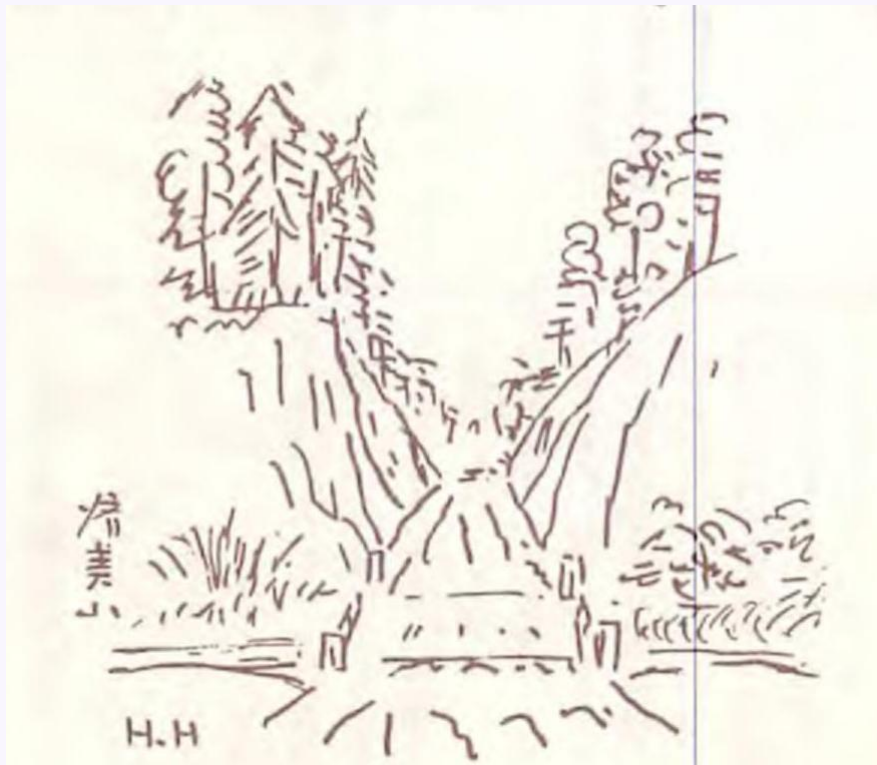
南たんぼ

「南たんぼ」という懐かしいこの言葉、少年時代を高原寺・堀之内・和田で過ごした方なら記憶にあることと思えます。南たんぼは、現在の堀之内一丁目と二丁目にまたがり、美山方向、大宮八幡下方へ帯のように善福寺川と共に伸びていました。

善福寺川も今と違って蛇行し、所々大変川幅が広くなっていました。台風など、大雨の時は、増水して田んぼは水びたしになつてしまいましたが、南たんぼの真中を荒川と玉川を結ぶ荒玉水道が通つていたため、車両制限もありました。

蛙が鳴き、畦道を歩くとき、ボチャびん「と水の中に飛び込んだり、水の中はナマズや腹の真赤なイモリというトカゲのようなものもいます。山林は昆虫、植物の宝庫で、採集に

は絶好な場所です。少年たちが捕虫網、鳥もちを塗った竹ざお等さまざまな恰好で遊びまわつ



いう名も公園や橋等に、わずかに残されていた。なりました。

ていました。また、済美山の切通しの際、赤土の崖をよじ登り、少し急で危険でもありましたが、ゴザを敷いて滑り降りました。戦後、たんぼも直線にされ、蛙もイナゴもいなくなり、南たんぼの名も人の口から忘れさられた。済美と

※南があるならば「北たんぼは？」この旧桃園川をはさんだ田んぼで、後が、関東大震災後の急速な宅地造成で整地され、大正末期には、「北たんぼ」は姿を消し、新開地と呼ばれるようになりました。